

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣研究報告書

平成 23 年 12 月 22 日

派遣者氏名（専門分野）	久保田裕次（日本史学）
-------------	-------------

下記のとおり報告します。
記

研究テーマ	長江流域利権をめぐる近代日英関係に関する研究
-------	------------------------

派遣期間

平成 23 年 11 月 1 日 ～ 平成 23 年 11 月 16 日

訪問研究機関	国	都市	訪問機関	受入研究者
	英国	ロンドン	The National Archives	
	英国	ロンドン	London School of Economics and Political Science	奈良岡聡智

派遣先で実施した研究内容

①The National Archives での史料調査

事前準備として、佐藤元英編著『日本・中国関係イギリス外務省文書目録』全三巻（クレス出版、1997年）や藤谷浩悦「イギリスの近代中国関係史料ーロンドンを中心にー」（『近代中国研究彙報』20、1998年）を読解していた。さらには、イギリス国立公文書館のホームページ（<http://www.nationalarchives.gov.uk/>）内にある閲覧の手引きを読み、検索システムなどで所蔵史料の確認を行った。しかし、『日本・中国関係イギリス外務省文書目録』には簿冊数が記載されているのみであり、検索システムでは、思うような史料を見つけることができなかった。当然のことではあるが、詳細については実際にイギリス国立公文書館を訪れないと分からないのが現状である。

史料の点数が膨大であり、出納にも時間がかかることを現地で初めて知ったことによって、時期を限定して史料調査を行った。イギリス外交文書の中でも、特に長江流域利権に関する文書を中心に閲覧・複写をした。刊行されている活字史料からはうかがい知ることができない、イギリス外交文書の保存状態や史料状況などを確かめることができた。その他、イギリスの対日外交一般に関しても、重要であると思われる文書の複写や参考文献調査も行った。ただし、二週間という短期間では、研究目的の達成はもちろん、イギリス国立公文書館における史料調査のやり方も十分に学ぶことができないのではないだろうか。

一方で、イギリス国立公文書館の展示室では、家族の歴史に関する展示が目立ち、実際、閲覧室においても、様々な年齢階層の人々が史料を閲覧していた。イギリスでは、公文書という史料が日本よりも身近に感じられているのではないかと感じた。

②London School of Economics and Political Science 図書館での史料調査

今回の調査における大きな目的の一つに、近代イギリスにおける対中国外交に関する最新の研究動向の把握を挙げた。そのため、ロンドンにおける主要な大学図書館での調査が不可欠であると考え、LSE 図書館で参考文献調査を行った。LSE 図書館は質量ともに充実しており、

利用もしやすい。深夜まで開館しており、図書は開架で閲覧に供されている。イギリスでは中国の政治・経済に対する関心が非常に高く、政治体制から産業開発などに至るまで様々な研究書が出版されていた。LSE 図書館では、近代の日本や中国の政治・外交に関する研究書・論文を検索・閲覧した。近代の日英・英中関係に関する参考文献や論文も多数あり、イギリスにおける近代中国研究の層の厚さを実感した。さらに、蔵書の検索についても、日本と異なった図書分類法に基づいた配架がなされており、イギリスの分類法に慣れるまで時間がかかった。ちなみに、図書は指定された場所に配架されていないことが多い。

③イギリスの研究者・大学院生との交流

最新の研究動向については、図書館での調査のみならず人的な交流が重要である。LSE の研究者、日本人大学院生との交流の場を設けることができたことは、今後の研究に大きく資するものであると考える。二週間という短期間であり、イギリス公文書館での史料調査を主な目的としていたため、講義やゼミを受講することはできなかった。しかし、日本外交史の研究動向やイギリス外交・経済史の研究動向について、情報交換を行うことができた。ここで得た情報に基づいて、派遣期間の後半は関連文献の購入・複写を効率的に行った。

研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

辛亥革命期から第一次世界大戦期までのイギリス外交文書の史料調査を今回の研究の目的としていた。ただし、今回の派遣期間内には、当該期におけるイギリスの対日・対中外交に関する史料状況を十分に把握できなかったため、今後、さらに調査を進めていきたい。

今回調査を行った史料群からは、派遣者が既に執筆した論文を補強する史料が数多く発見された。また、今後の研究を行っていく上でも、示唆に富む史料も散見された。刊行されているイギリス外交文書 (*British Document on Foreign Affairs* など) には収録されていない史料が原文書に残されていることが分かった。

イギリスの中国研究が非常に盛んであることを学ぶこともできた。歴史的な経緯からみても、中英は密接な関係にあるが、歴史学のみならず政治学・メディアの分野においても中国に対する関心が非常に高かった。日本では確認することが困難な、近代中英関係の歴史研究の動向についても知ることができた。

派遣後の研究発表の予定

- ・久保田裕次「辛亥革命 100 年と日本近代史研究」(大阪歴史科学協議会 2012 年 1 月例会、会場未定、2012 年 1 月)
- ・久保田裕次「長江流域の鉄道利権と対華二一カ条要求—南潯鉄道を中心に—」(日本政治外交史研究会、神戸大学、2012 年 5 月)